

駒岡のバスをなくされたら困ります。なくさないでください。

私だけではありません。私のまわりの学校の保護者たちには、
何の説明もない一方的なバス廃止に対して、不安と不満がうずまいています。
なぜ、毎日こんなにたくさん子どもたちが乗っているのに、なくされなくちゃいけないのか。
ただ学校に通いたいだけなのに、その手段を、大人の都合で失くしてしまっているのか。
何十人という子どもたちの人権はどうなるのか、と悲しくなります。

バスの中でたくさん子どもたちは、健気ががんばって、他の乗客の方に席を譲り、静かに乗車するよう、
上級生を先頭に、じぶんの頭で考えて、率先して取り組みます。
そのステキな姿には、一人の大人として、率直に感動するものがあります。
バス会社の人も、市の人も、この路線のバスに、一度でも子どもたちと一緒に乗ったことがありますか？
乗ったことがないから、そんな子どもたちの様子をまったく知らないのでしょうか。
乗ってみてくださいよ。

駒岡線は、子どもたちの人数だけ考えても、一日に三桁の乗客はある、立派な路線です。
それを、机の上の計算だけで、どちらかという他に比べて利用者が少ないかな…と言って
こうも簡単に切り捨てられるものなのでしょうか。
悔しい思いでいっぱいです。

バス会社のみなさん。
運転手が足りないから、とよく言います。たしかにそうでしょう。
でも、駒岡の路線を続けるのに必要な運転手は、たった一人だと聞きました。
子どもたちにとって、学校に通うための、かけがえのない路線です。
その一人の運転手を省くために、
子どもたちに、真駒内駅から5キロ歩いて通いなさい、と言うつもりでしょうか。
うちは知らないから、あとは札幌市に何とかしてもらいなさい、とでも言うのでしょうか。
中央バスのような大きなバス会社が、そんな大切な路線を守る一人さえ、確保できないのでしょうか。
情けない思いがこみ上げてきます。
もう一度、ちゃんと考え直してください。

札幌市役所のみなさん。
この路線の大切さを、過小評価しないでください。
もっとバス事業者との交渉や、支援など、ちゃんと本気で考えてください。
駒岡の小学校は、札幌市内各所から子どもたちが集まってきます。
自然に囲まれて、小規模で、子どもたちが自主性と笑顔にあふれています。
このかけがえのない子どもたちに、悲しい顔をさせないでください。

みなさん、たった一人の運転手でかまいません、
子どもたちにバス路線をプレゼントしてあげてください。
いまこそ、大人社会ががんばるときです。